

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

和泉市水道事業のあゆみ

第2章

和泉市水道事業のあゆみ

水道創設

和泉市の水道は、旧和泉町、八坂町、信太村地域の飲料水不足から、上水道の布設が早くから望まれていました。このような背景のもと、昭和28年4月に和泉町他2か町村（八坂町、信太村）上水道組合として設立されました。創設事業は、昭和28年10月に認可着手し、昭和30年9月から給水を開始しました。

創設事業の計画概要は、給水人口19,200人、1人1日平均給水量120ℓと計画し、水源を大阪府営水道（現：大阪広域水道企業団。以下同じ。）から1日平均給水量2,300m³を求めました。

その後、昭和31年9月の市制施行に伴う市域の拡大により、水の需要は増加の一途をたどりま

した。しかし、本市は南北に細長い地勢であり街が分散しているため、単一事業としての給水区域の拡大は困難で、また水源確保も難しく地域毎に簡易水道の事業認可を受けて着手しました。

昭和35年8月には、八坂町、信太村を編入合併と同時に、和泉町他2か町村上水道組合を解消し、和泉市水道事業として発足しました。

創設事業認可

| | |
|-----------|---------------------|
| 総事業費 | 88,652,000円 |
| 起工 | 昭和28年10月 |
| 竣工 | 昭和33年3月 |
| 計画給水人口 | 19,200人 |
| 1日平均給水量 | 2,300m ³ |
| 1日最大給水量 | 3,450m ³ |
| 1人1日最大給水量 | 180ℓ |
| 給水開始 | 昭和30年9月1日 |



●創設起工式

第1回拡張事業

市勢の発展に伴い、給水人口の増加は著しく、創設時の目標年度には既に計画給水量の2倍強に達しましたが、大阪府営水道の第4次拡張事業の受水対象から除かれていたため、契約受水量以上の受水を望むことができず、新規水源を泉北水道企業団（和泉市・泉大津市・高石市による一部事務組合）に求め、昭和35年12月に認可を得て、昭和36年4月から第1回拡張事業に着手、昭和38年度を目標として、給水人口40,000人、1日最大給水量9,600m³とし、新たに3,200m³の給水能力を持つ山荘配水場を築造しました。



●山荘配水場

第1回拡張事業

| | |
|-----------|---------------------|
| 総事業費 | 149,912,000円 |
| 起工 | 昭和36年4月 |
| 竣工 | 昭和39年3月 |
| 計画給水人口 | 40,000人 |
| 1日平均給水量 | 6,800m ³ |
| 1日最大給水量 | 9,600m ³ |
| 1人1日最大給水量 | 240ℓ |

第2回拡張事業

本市における住宅開発は予想以上に進展し、水需要もこれに伴って著しい増加傾向が見られたので、第2回拡張事業を計画しました。

本事業計画は、和田浄水場の処理能力を1日最大10,000m³に拡張するとともに、池上浄水場（池上ポンプ所）に深井戸（1日最大給水量4,000m³）を新設しました。同時期に大阪府営水道の受水池を築造しました。

第2回拡張事業

| | |
|-----------|----------------------|
| 総事業費 | 487,992,000円 |
| 起工 | 昭和39年4月 |
| 竣工 | 昭和42年3月 |
| 計画給水人口 | 100,000人 |
| 1日平均給水量 | 25,000m ³ |
| 1日最大給水量 | 36,000m ³ |
| 1人1日最大給水量 | 360ℓ |



●池上浄水場

第3回拡張事業

第1回、第2回拡張事業を実施しましたが、堺、泉北臨海工業地の造成に伴い、その後背地としての本市丘陵地帯に住宅団地などの開発計画が進められましたので、これと併せて未給水地区を解消するため、給水区域を低区、中区、高区に区分し、各区の送配水施設を整備、拡張すべく第3回拡張事業を計画しました。

第3回拡張事業は、昭和53年度を目標として、給水人口165,000人、1日最大給水量59,400m³を確保するもので、昭和41年2月2日認可を得て、昭和54年3月に竣工しました。



●鶴山台配水場

第3回拡張事業

| | |
|-----------|----------------------|
| 総事業費 | 3,500,885,000円 |
| 起工 | 昭和41年4月 |
| 竣工 | 昭和54年3月 |
| 計画給水人口 | 165,000人 |
| 1日平均給水量 | 41,250m ³ |
| 1日最大給水量 | 59,400m ³ |
| 1人1日最大給水量 | 360ℓ |

第4回拡張事業

本市丘陵地帯における新住宅市街地開発事業をはじめとして新規宅地開発が活発となり、今後の水需要の増加は必須である事から、これらに対応すべく給水条件の均等化、受水施設・送配水施設の整備拡充及び監視制御体制を強化し、広域的な施設の運用を図るため第4回拡張事業を計画しました。

第4回拡張事業は、平成27年度を目標として、給水人口199,600人、1日最大給水量90,000m³とし、将来にわたる安定供給を図るもので、平成4年3月12日認可を得て、現在施工中です。

第4回拡張事業

| | |
|-----------|----------------------|
| 総事業費 | 15,450,688,000円 |
| 起工 | 平成4年4月 |
| 竣工 | 平成28年3月 |
| 計画給水人口 | 199,600人 |
| 1日平均給水量 | 72,800m ³ |
| 1日最大給水量 | 90,000m ³ |
| 1人1日最大給水量 | 451ℓ |



●中央受配水場

| 年 | 月 | 主な事項 |
|-------|-----|---|
| 昭和28年 | 4月 | 和泉町他2か町村上水道組合創設。同年10月工事着手 |
| 昭和30年 | 9月 | 給水開始 |
| 昭和31年 | 9月 | 和泉町隣接6か村合併により市制施行 |
| | 12月 | 九鬼簡易水道事業認可 |
| 昭和32年 | 8月 | 同給水開始 |
| 昭和33年 | 3月 | 北田中簡易水道事業認可 |
| | // | 和泉町他2か町村水道事業完成 |
| | 7月 | 北田中簡易水道給水開始 |
| 昭和35年 | 8月 | 松尾上水道事業認可 |
| | // | 父鬼簡易水道事業認可 |
| 昭和36年 | 8月 | 池田広域簡易水道事業認可 |
| | // | 八坂町、信太村を和泉市に編入合併 |
| | 12月 | 第1回拡張事業認可(和泉上水道) |
| 昭和37年 | 1月 | 松尾上水道給水開始 |
| | 4月 | 第1回拡張事業着手 |
| | 12月 | 父鬼簡易水道給水開始 |
| 昭和38年 | 4月 | 地方公営企業法適用 |
| | 10月 | 池田広域簡易水道給水開始 |
| 昭和39年 | 4月 | 三林加圧ポンプ所稼働(池田広域簡易水道) |
| | // | 内田加圧ポンプ所稼働(松尾上水道) |
| | 12月 | 北田中、父鬼、池田広域簡易水道及び松尾上水道を廃止し、和泉上水道事業に統合する 北田中簡易水道 → 下宮浄水場 父鬼簡易水道 → 父鬼浄水場 池田広域簡易水道 → 和田浄水場 松尾上水道 → 唐国浄水場 |
| | // | 第2回拡張事業認可 |

| 年 | 月 | 主な事項 |
|-------|-----|--|
| 昭和39年 | 3月 | 第1回拡張事業完成 |
| | 4月 | 第2回拡張事業着手 |
| | 8月 | 泉北水道企業団より受水開始 |
| | 9月 | 池上浄水場深井戸揚水開始 |
| 昭和40年 | 4月 | 料金改定 |
| 昭和41年 | 2月 | 第3回拡張事業認可 |
| | 4月 | 第3回拡張事業着手 |
| | 12月 | 和田浄水場拡張工事着手(第2拡) |
| 昭和42年 | 3月 | 第2回拡張事業完成 |
| | 5月 | 和田浄水場拡張工事竣工(第2拡) |
| 昭和43年 | 10月 | 唐国浄水場廃止(和田浄水場に統合) |
| 昭和44年 | 2月 | 料金改定 |
| | 10月 | 大阪府営水道第5拡より受水開始 10月1日 和田浄水場 12月12日 池上浄水場 |
| 昭和45年 | 3月 | 三井受水場、三井配水塔稼働 |
| | // | 第3回拡張事業変更認可 |
| | 4月 | 同事業着手 |
| 昭和46年 | 1月 | 水道庁舎竣工 |
| | 9月 | 鶴山台配水場稼働により鶴山台団地に給水開始 |
| 昭和47年 | 4月 | 配水管整備事業着手(環境改善整備事業) |
| | 2月 | 和田浄水場拡張工事着手(第3拡) |
| 昭和48年 | 12月 | 和田浄水場拡張工事竣工(第3拡) |
| | 4月 | 配水管更生事業着手 |
| 昭和49年 | 4月 | 隔月集金検針実施 |
| | 6月 | 加入金制度実施 |
| | // | 春木川配水池稼働 |
| | 8月 | 父鬼浄水場拡張工事着手 |

| 年 | 月 | 主な事項 |
|-------|-----|---|
| 昭和51年 | 4月 | 池上浄水場休止 |
| | 10月 | 父鬼浄水場拡張工事竣工 |
| 昭和52年 | 4月 | 酸性土壌による配水管腐蝕防止のため、ポリエチレンスリーブ使用開始 |
| 昭和53年 | 2月 | 料金改定 |
| | // | 善正加圧ポンプ所及び南面利配水池稼働 |
| | 4月 | 光明台高区、低区配水場稼働により光明台団地給水開始(三林加圧ポンプ所休止) |
| | // | 松尾寺配水池稼働により中区系統は全面自然流下式に切り替える(内田加圧ポンプ所休止) |
| | // | 漏水防止対策担当配置 |
| | 5月 | 福瀬加圧ポンプ所稼働 |
| | 10月 | 料金改定 |
| 昭和54年 | 3月 | 和田浄水場排水処理施設稼働 |
| | // | 第3回拡張事業完成 |
| | 4月 | 水道施設等整備事業着手 |
| | 5月 | 坪井配水池稼働 |
| 昭和58年 | 10月 | 水道使用料金納付制度実施 |
| 昭和62年 | 8月 | 唐国加圧ポンプ所稼働 |
| 昭和63年 | 4月 | 財務会計電算化 |
| | 12月 | 山荘配水場施設整備 |
| 平成元年 | 3月 | 消費税導入により給水条例改正 |
| | 4月 | 管工事設計積算電算化 |
| | // | 耐震性を考慮し、大口径送・配水管にS形、KF形、UF形を採用 |
| | 7月 | 水道使用料金福祉減免制度発足 |
| 平成2年 | 4月 | 資材入出在庫管理電算化 |
| 平成3年 | 4月 | 窓口入出金管理ポスシステム稼働 |
| | 11月 | ハンディ・ターミナルによる検針システム導入 |

| 年 | 月 | 主な事項 |
|-------|-----|--|
| 平成4年 | 3月 | 第4回拡張事業認可 |
| | 4月 | 第4回拡張事業着手 |
| | 10月 | 水道フェア開催(第1回) |
| | 12月 | 検針業務委託 |
| 平成5年 | 4月 | 父鬼浄水場無人化(中央監視・制御) |
| | // | 耐震性を考慮し、中口径送・配水管にSII形を採用 |
| | 9月 | 中央受配水場築造工事起工 |
| | 12月 | 新水質基準施行 |
| 平成6年 | 1月 | 料金改定(平均25.21%) |
| | 10月 | 漏水修理専用ダイヤル設置(0725-44-1441) |
| 平成7年 | 1月 | 阪神・淡路大震災発生給水応援活動(芦屋市:延べ97人)、復旧工事応援活動(西宮市:延べ32人) |
| | 3月 | 中央受配水場築造工事竣工 |
| | 10月 | 給水車(タンクローリー)導入容量:2kℓ |
| 平成8年 | 6月 | 株式会社和泉市公共サービス公社業務開始 |
| 平成9年 | 4月 | 消費税率引き上げによる給水条例改正 平成9年度 3%加算 平成10年度以降 5%加算 |
| 平成10年 | 3月 | みずぎ台配水塔竣工 |
| | // | 小口径配水管にK形を採用 |
| | 7月 | 府営水道高度浄水処理水全面供給 |
| 平成11年 | 3月 | 中央監視施設・はつが野配水場・テクノステージ配水池・加圧ポンプ場竣工 |
| | // | 和田浄水場排水処理施設廃止 |
| | 4月 | 中央監視業務一部委託 |
| 平成12年 | 10月 | 大阪府営水道料金改定(18.26%) |
| 平成13年 | 3月 | 中央受配水場2号配水池竣工 |
| | 4月 | 部庁舎内総合ネットワーク確立 |

| 年 | 月 | 主な事項 |
|-------|-----|-----------------------------|
| 平成14年 | 4月 | 料金改定(14.63%) |
| 平成15年 | 4月 | コンビニによる水道料金収納業務を開始 |
| | 10月 | 耐震性緊急貯水槽設置(郷荘中学校) |
| 平成16年 | 4月 | 新水質基準施行 |
| | 6月 | 「水道ビジョン」策定・公表(厚生労働省) |
| 平成17年 | 4月 | マッピングシステム稼働 |
| | 5月 | 水道料金等納付書変更。封書方式→シークレットメール方式 |
| | 10月 | 送・配水管にNS形を採用、給水管にポリエチレン管を採用 |
| | 12月 | 水道施設耐震診断実施(4か年計画) |
| 平成18年 | 3月 | 耐震性緊急貯水槽設置(青葉はつが野小学校) |
| | // | 和泉市行財政改革プラン作成 |
| | 10月 | 耐震性緊急貯水槽設置(富秋中学校) |
| 平成19年 | 4月 | 機構改革により上下水道部になる |
| | 10月 | 耐震性緊急貯水槽設置(和泉中学校) |
| 平成20年 | 3月 | 第4回拡張事業認可(軽微な変更) |
| | // | 父鬼配水池竣工 |
| | 9月 | 坪井加圧ポンプ所竣工 |
| | 10月 | 耐震性緊急貯水槽設置(信太中学校) |

| 年 | 月 | 主な事項 |
|-------|-----|---|
| 平成21年 | 4月 | 漏水等減免制度一部改正 |
| | // | 水道料金等滞納整理・開閉栓・清算に関する業務委託 |
| 平成22年 | 3月 | 福祉減免制度廃止 |
| | 4月 | 大阪府営水道料金改定により、水道料金4%軽減 |
| | // | 窓口事務等に関する業務委託 |
| | // | 福祉助成制度開始【対象世帯】ひとり親世帯、高齢者世帯(65歳以上)、重度障がい者世帯(身体障がい者1、2級・療育手帳A・精神障がい者1級) |
| | 8月 | 市内5か所の耐震性緊急貯水槽操作訓練実施 |
| | 11月 | 大阪府営水道事業を継承し、府内42団体で大阪広域水道企業団設立 |
| 平成23年 | 3月 | 東日本大震災発生給水応援活動(岩手県へ派遣) |
| | 4月 | 大阪広域水道企業団水道用水供給事業・工業用水道事業開始 |
| | // | 福祉助成等に関する業務委託 |
| | 6月 | 東日本大震災の給水応援活動終結(岩手県:延べ92人) |
| | 7月 | 小川地区特設水道から上水道となる |